


2022年度第2四半期決算概要 および2022年度業績予想

2022/11/11

 住友重機械工業株式会社
社長 下村 真司

INDEX

01

2022年度第2四半期決算概要

02

2022年度業績予想

03

トピックス

04

サステナビリティへの取り組み

01

2022年度第2四半期決算概要

01 2022年度の決算期変更について（2022年5月発表の再掲）

【2022年度 業績予想について】

当期（2022年12月期）より、決算期（事業年度の末日）を12月31日に変更。

移行期となる当期は、住友重機械工業および国内子会社（以後「国内」）について、**2022年度は9カ月**となる。

	2021年度	2022年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	2023年度
国内	2021年4月～2022年3月	2022年4月～2022年12月 (9カ月)	4月～6月 (3カ月)	7月～9月	10月～12月	2023年1月～2023年12月
海外	2021年1月～2021年12月	2022年1月～2022年12月 (12カ月)	1月～6月 (6カ月)			

	2022年				2023年
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
国内		1Q	2Q	3Q	
		2022年度 国内 9カ月		2022年度 国内 3Q	
		2022年度 国内 2Q		2022年度 国内 1Q	
		2022年度 国内 1Q		2022年度 国内 3Q	
海外		1Q	2Q	3Q	
		2022年度 海外 12カ月		2022年度 海外 3Q	
		2022年度 海外 2Q		2022年度 海外 1Q	
		2022年度 海外 1Q		2022年度 海外 3Q	

01

2022年度第2四半期業績サマリー

＜前年同期比較＞

- ・ 受注高 : 世界的に機械需要は増加基調となり、すべてのセグメントで増加。
- ・ 売上高 : 円安影響により増加するも、調達難による生産制約やエネルギー&ライフラインの工事進捗差などにより増加は限定的。
- ・ 営業利益 : 円安による好転はあったものの、原材料や調達品の価格上昇、工事進捗差による売上減やプロジェクト採算悪化などで減少。

* 2021年度・2022年度共に
国内：4月～9月の6か月
海外：1月～9月の9か月

単位：億円	2021年度			2022年度			22上-21上 増減
	1Q(4-6月)実績	2Q(7-9月)実績	上期* 実績	1Q(4-6月)実績	2Q(7-9月)実績	上期* 実績	
受注高	3,511	2,586	6,097	4,009	3,045	7,054	956
売上高	3,107	2,224	5,331	3,142	2,624	5,766	435
営業利益	192	117	310	148	120	267	△42
営業利益率	6.2%	5.3%	5.8%	4.7%	4.6%	4.6%	△1.2%
経常利益	193	114	306	166	120	285	△21
経常利益率	6.2%	5.1%	5.7%	5.3%	4.6%	4.9%	△0.8%
特別損益	△1	△1	△3	5	△1	5	7
税金等調整前当期純利益	191	112	304	171	119	290	△14
親会社株主純利益	118	79	197	103	87	190	△7
親会社株主利益率	3.8%	3.5%	3.7%	3.3%	3.3%	3.3%	△0.4%
1株当たり配当			35円			45円	
為替レート(ドル)			¥108			¥132	

01

セグメント別業績

- ①受注 : 国内や欧米で中小型の変減速機／ロボット用精密減速機／モータの需要に加え、半導体関連の需要も好調であったこと、国内でバイオマス発電設備の大型案件を受注したことなどから大幅増加。
- ②売上 : インダストリアル マシナリー、ロジスティックス&コンストラクションなどの調達難による生産制約や、エネルギー&ライフラインでの工事進捗差などにより増加幅は限定的。
- ③営業利益 : 原材料や調達品の価格上昇とエネルギープラントの採算悪化で減益。

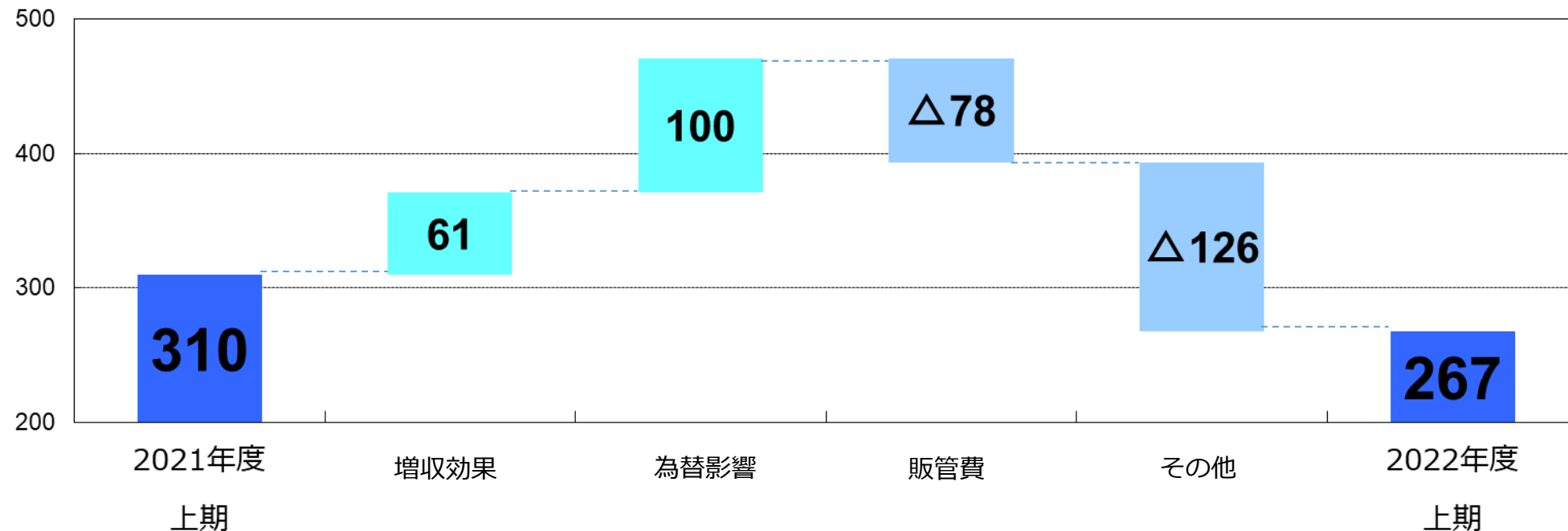
* 2021年度・2022年度共に
国内：4月～9月の6か月
海外：1月～9月の9か月

単位：億円	受注高 ①			売上高 ②			営業利益 ③				
	2021年度 上期* 実績	2022年度 上期* 実績	増減	2021年度 上期* 実績	2022年度 上期* 実績	増減	2021年度 上期* 実績 /営業利益率(%)		2022年度 上期* 実績 /営業利益率(%)		増減
メカトロニクス	1,239	1,515	277	1,019	1,269	250	39	3.8	47	3.7	8
(プラスチック加工機械)	788	678	△110	707	664	△44					
(その他)	838	1,253	415	622	859	238					
インダストリアル マシナリー	1,626	1,931	306	1,329	1,523	194	100	7.5	134	8.8	34
(油圧シヨベル)	1,504	1,597	93	1,222	1,191	△31					
(その他)	821	880	59	726	830	104					
ロジスティックス &コンストラクション	2,325	2,477	153	1,948	2,022	74	102	5.2	96	4.8	△6
エネルギー&ライフライン	875	1,101	226	1,006	926	△80	59	5.8	△18	△2.0	△77
その他	33	29	△5	29	27	△2	11	-	8	-	△2
合計	6,097	7,054	956	5,331	5,766	435	310	5.8	267	4.6	△42

01

営業利益増減分析

単位：億円



<増収効果 セグメント別内訳>

単位：億円

メカトロニクス	41
インダストリアル マシナリー	51
ロジスティクス&コンストラクション	△14
エネルギー&ライフライン 他	△18

<販管費>

売上増に伴う販売運送費および人件費などが増加

<その他>

原材料、調達品価格上昇影響△110億円、
価格転嫁による改善+50億円 など

01

連結貸借対照表（資産の部）

単位：億円	2022/3末	2022/9末	増減
流動資産	6,481	7,059	578
現預金	888	1,030	142
契約資産	2,948	2,870	△78
棚卸資産	2,321	2,802	481
その他	324	357	33
固定資産	4,468	4,735	266
有形固定資産	3,010	3,194	184
無形固定資産	776	788	12
投資その他の資産	683	753	70
資産合計	10,949	11,794	845

- 総資産：
売上高の増加、設備投資の増加に伴い増加。
- 契約資産：
エネルギー&ライフラインの売掛金回収が進捗し減少。
- 棚卸資産：
受注増に伴い、全セグメントで増加。
部品供給遅れや生産能力不足によるリードタイム長期化の影響あり。
- 有形固定資産：
積極的な設備投資により増加。

01

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

単位：億円	2022/3末	2022/9末	増減
負債	5,281	5,606	325
買掛債務	1,726	1,703	△23
有利子負債	1,113	1,329	217
その他	2,442	2,573	131
純資産	5,668	6,189	520
株主資本	4,789	4,881	92
その他の包括利益累計額	725	1,155	430
非支配株主持分	155	153	△2
負債・純資産合計	10,949	11,794	845
ネット有利子負債比率	2.1%	2.5%	0.5%
自己資本比率	50.4%	51.2%	0.8%

- 買掛債務：
部品調達難により
ロジスティックス&コンストラクションで減少。
- 有利子負債：
現預金控除後の純有利子負債は74億円の増加。
- 純資産：
利益剰余金が92億円増加。
円安に伴い為替換算調整勘定が451億円増加。

01

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：億円

区 分	2022年度 上期
営業活動	242
税金等調整前当期純利益	290
減価償却費	206
運転資本	△138
その他（税金等）	△116
投資活動	△216
（フリーキャッシュ・フロー）	27
財務活動	57
現金・現金同等物増減	147
現金・現金同等物期末残高	997

■ 営業キャッシュ・フロー：

運転資本の増加により、242億円で留まる。

■ 投資キャッシュ・フロー：

高水準の投資を継続。

■ キャッシュ・フロー 指標トレンド

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 上期
フリー キャッシュ・ フロー（億円）	333	2	△215	204	120	27
債務償還年数 （年）*1	0.9	1.3	3.4	1.9	1.8	
インタレスト・ カバレッジ・ レシオ（倍）*2	72.5	51.2	30.5	66.2	81.8	

*1 有利子負債÷営業キャッシュ・フロー

*2 営業キャッシュフロー÷利払い

02

2022年度業績予想

02

2022年度 業績予想

- 設備投資／機械需要は、今年度中は引き続き堅調と想定。
- 現時点で把握できる一定のコストアップ要因を織り込み。
- サプライチェーンの混乱は、半導体の調達などで影響が残る。
- 地政学リスク・過度な円安・感染症影響などのリスクについては注視が必要。

	国内	海外
*1	2021年/2022年4月～9月の6カ月	2021年/2022年1月～9月の9カ月
*2	2021年/2022年4月～12月の9カ月	2021年/2022年1月～12月の12カ月
*3	2021年4月～2022年3月の12カ月	2021年1月～12月の12カ月

以降全て同様

単位：億円	2021年度 上期 *1 実績 (2021.4-2021.9)	2022年度 上期 *1 実績 (2022.4-2022.9)	2021年度 *2 実績 (2021.4-2021.12)	(参考)2022年度 *2 予想(22年5月時点) (2022.4-2022.12)	2022年度 *2 予想(22年11月時点) (2022.4-2022.12)
受注高	6,097	7,054	8,952	8,800	9,700
売上高	5,331	5,766	7,798	8,500	8,700
営業利益	310	267	506	510	430
営業利益率	5.8%	4.6%	6.5%	6.0%	4.9%
経常利益	306	285	493	490	440
経常利益率	5.7%	4.9%	6.3%	5.8%	5.1%
特別損益	△3	5	△4	△20	△20
親会社株主純利益	197	190	324	300	260
親会社株主利益率	3.7%	3.3%	4.2%	3.5%	3.0%
1株当たり配当	35円	45円	*3 115円	90円	90円
配当性向			*3 32.0%	36.8%	42.4%
ROIC(税引後)			*3 7.3%	7.0%	5.8%
【参考】ROE			*3 8.5%	7.2%	6.0%
為替レート(ドル)	¥108	¥132	*3 ¥112	¥120	¥145

02

2022年度 セグメント別業績予想

	受注高			売上高			営業利益					
	2022年度 上期*1 実績	(参考) 2022年度*2 予想 (22年5月時点)	2022年度*2 予想	2022年度 上期*1 実績	(参考) 2022年度*2 予想 (22年5月時点)	2022年度*2 予想	2022年度 上期*1 実績 /営業利益率(%)		(参考)2022年度*2 予想 (22年5月時点) /営業利益率(%)		2022年度*2 予想 /営業利益率(%)	
単位：億円												
メカトロニクス	1,515	1,740	2,030	1,269	1,760	1,860	47	3.7	95	5.4	70	3.7
(プラスチック加工機械)	678	940	960	664	960	970						
(その他)	1,253	1,440	1,720	859	1,260	1,290						
インダストリアル マシナリー	1,931	2,380	2,680	1,523	2,220	2,260	134	8.8	170	7.7	160	7.1
(油圧シヨベル)	1,597	1,930	2,280	1,191	1,980	1,930						
(その他)	880	1,080	1,170	830	1,100	1,160						
ロジスティクス & コンストラクション	2,477	3,010	3,450	2,022	3,080	3,090	96	4.8	145	4.7	150	4.8
エネルギー&ライフライン	1,101	1,630	1,480	926	1,390	1,430	△18	△2.0	75	5.4	10	0.7
その他	29	40	60	27	50	60	8	-	25	-	40	-
合計	7,054	8,800	9,700	5,766	8,500	8,700	267	4.7	510	6.0	430	4.9

02

メカトロニクス

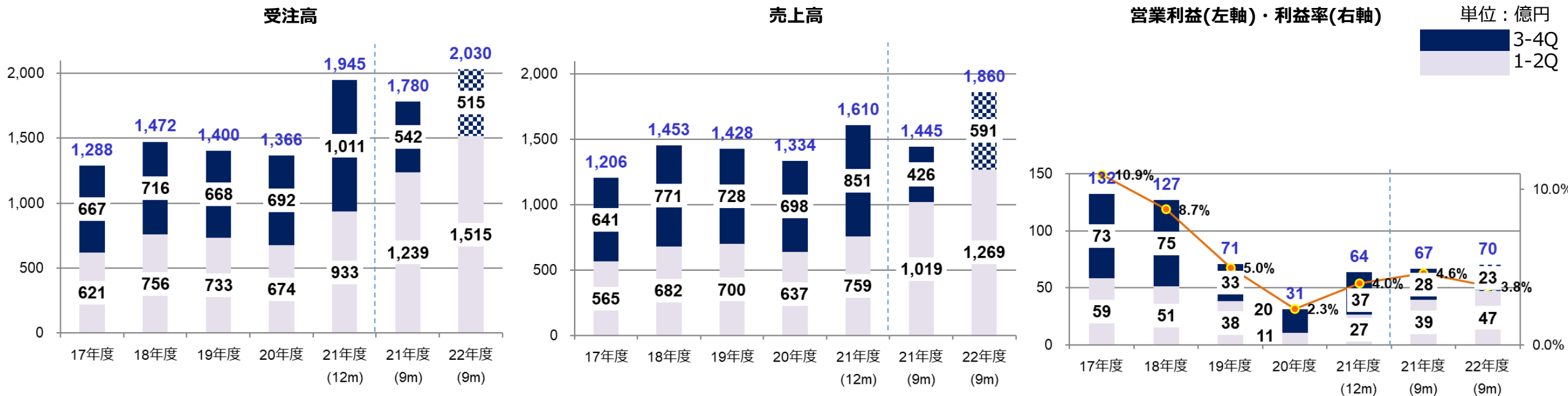
2 2 上期：国内や欧米で中小型の変減速機やロボット用精密減速機、モータの需要が増加し、受注、売上は増加。営業利益は、売上増や円安効果があったものの、資材費や輸送費の上昇により改善は限定的。

2 2 年度：市況は堅調に推移する想定で、受注、売上は前回予想から上方修正。一方、資材費や輸送費の上昇が当初想定以上で、営業利益は下方修正。

単位：億円	2021年度			2022年度			22上-21上 増減	
	上期*1 実績	実績 (9か月)*2	実績 (12か月)	上期*1 実績	【参考】22年5月 予想 *2	22年11月 予想 *2		予想 増減
受注高	1,239	1,780	1,945	1,515	1,740	2,030	290	277
売上高	1,019	1,445	1,610	1,269	1,760	1,860	100	250
営業利益	39	67	64	47	95	70	△25	8
営業利益率 (%)	3.8	4.6	4.0	3.7	5.4	3.8	△1.6	△0.1
受注残高	629	876	876	1,122				

02

メカトロニクス



＜参考＞

・ 変減速機事業 機種別売上構成 (概数)

	ギヤモータ (中型)	ギヤボックス (大型)	精密用途 (MCD)	サービス	電機制御	合計
2022年度 上期*1	40%	20%	10%	10%	20%	100%
2021年度	40%	20%	10%	10%	20%	100%

02

インダストリアル マシナリー

<プラスチック加工機械>

2 2 上期：前期好調であった中国や欧州の需要が落ち着いたことから、受注、売上、営業利益ともに減少。

2 2 年度：前回予想とほぼ変化なく、受注、売上は微増も、資材費の上昇などにより営業利益は微減。

<その他>

2 2 上期：半導体関連の需要が増加し、受注、売上、営業利益はともに増加。

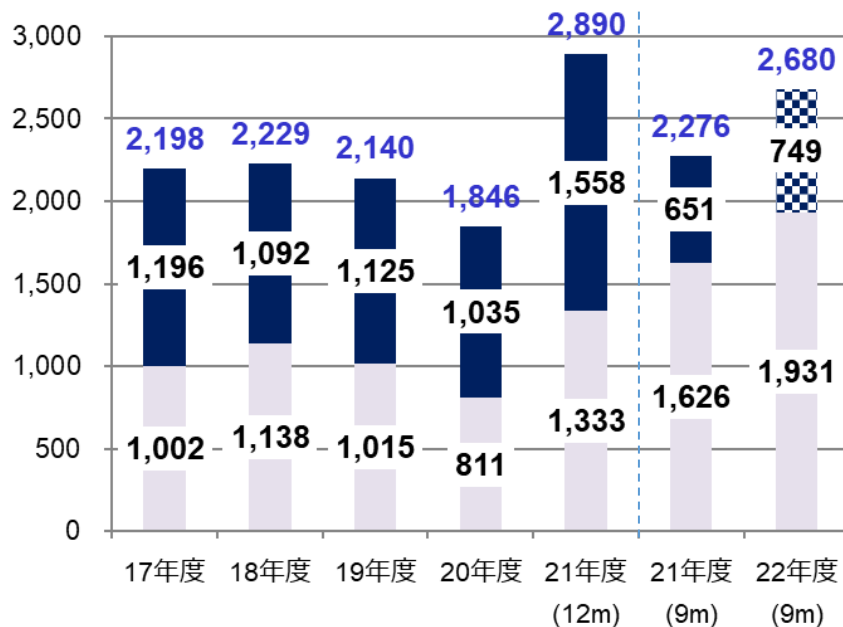
2 2 年度：半導体関連は引き続き堅調で、受注は前回予想から上方修正も、資材費の上昇などで営業利益は微減。

単位：億円	2021年度			2022年度				22上-21上 増減
	上期*1 実績	実績 (9か月)*2	実績 (12か月)	上期*1 実績	【参考】22年5月 予想 *2	22年11月 予想 *2	予想増減	
プラスチック加工機械	788	1,043	1,137	678	940	960	20	△110
その他	838	1,234	1,754	1,253	1,440	1,720	280	415
受注高	1,626	2,276	2,890	1,931	2,380	2,680	300	306
プラスチック加工機械	707	964	1,058	664	960	970	10	△44
その他	622	948	1,248	859	1,260	1,290	30	238
売上高	1,329	1,913	2,306	1,523	2,220	2,260	40	194
営業利益	100	142	193	134	170	160	△10	34
営業利益率 (%)	7.5	7.4	8.4	8.8	7.7	7.1	△0.6	1.3
受注残高	1,030	1,510	1,510	1,918				

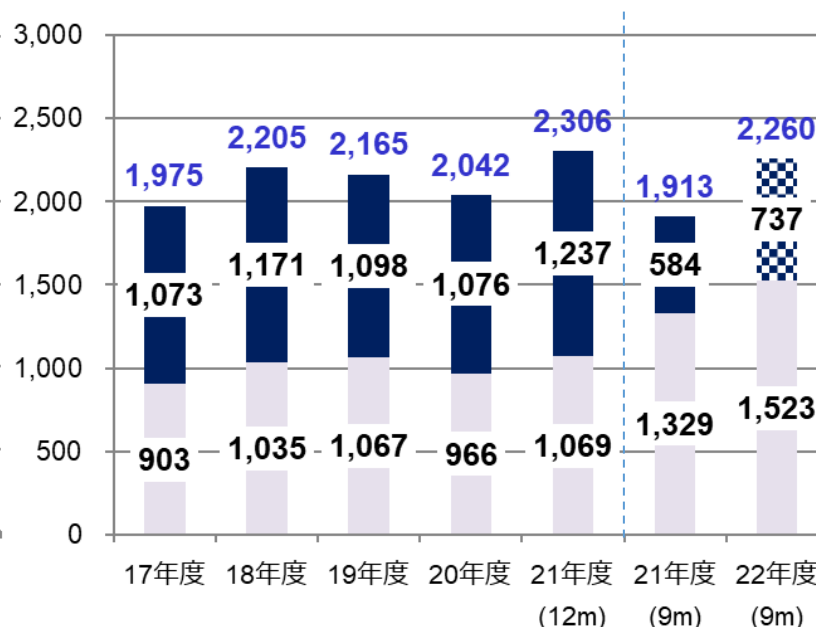
02

インダストリアル マシナリー

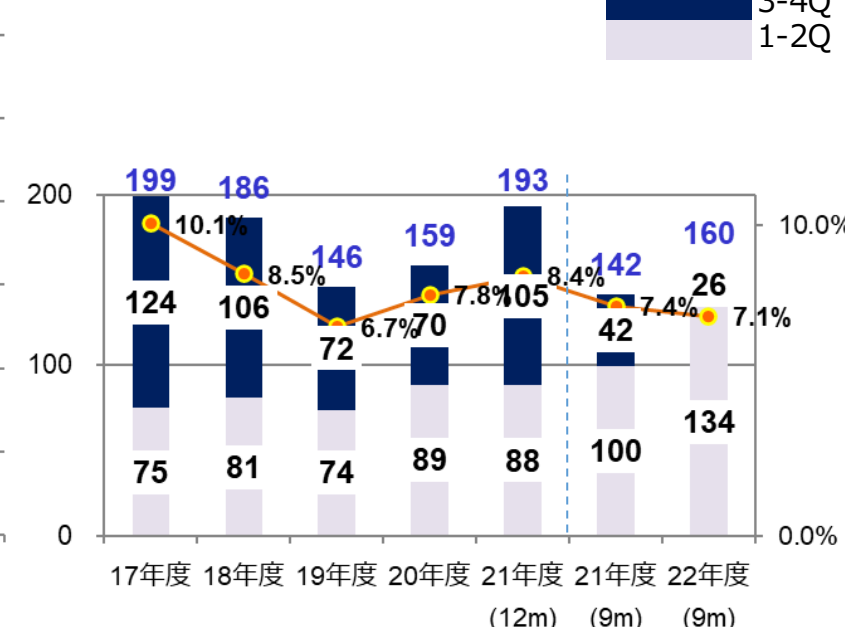
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



単位：億円

3-4Q	■
1-2Q	■

<参考>

・射出成形機 売上業種別構成 (概数)

	電気・電子 関連	自動車	医療・食品 容器・雑貨	その他	合計
2022年度 上期*1	20%	15%	50%	15%	100%
2021年度	25%	15%	45%	15%	100%

・半導体製造装置 (イオン注入装置) 事業業績 (概数)

単位：億円	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 上期*1 実績	2022年度 予想
受注	230	610	320	430
売上	400	360	270	360

02 ロジスティクス&コンストラクション

<油圧ショベル>

2 2 上期：景気減速やロックダウンで中国市場の需要は大きく減少も国内や北米地区は堅調で受注は増加。
一方、中国の落ち込みや調達難による生産制約などにより、売上、営業利益は減少。

2 2 年度：前回予想から受注は上方修正も、調達難による生産制約などから売上、営業利益は下方修正。

<その他>

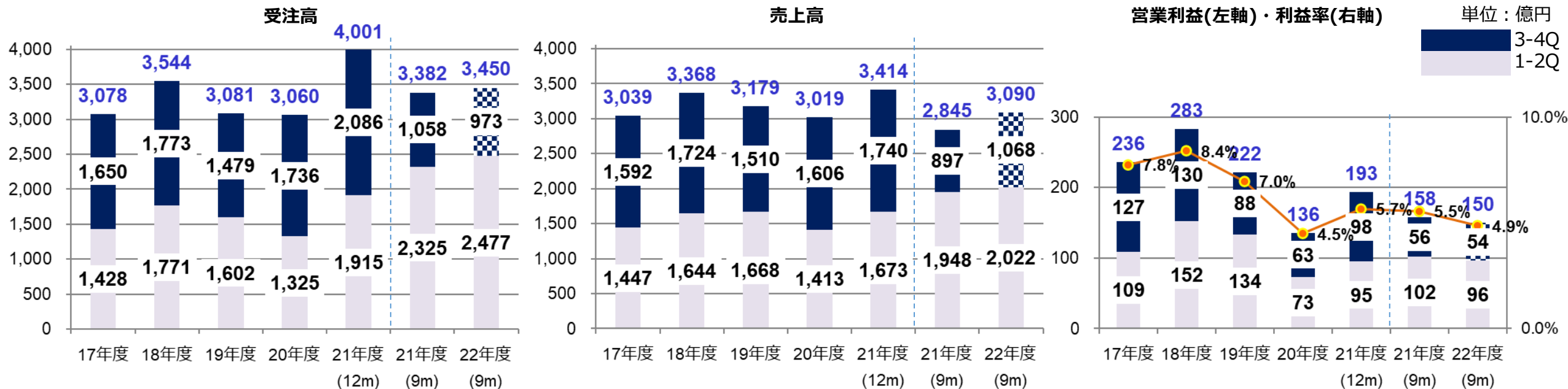
2 2 上期：建設用クレーン事業は北米地区の需要が堅調に推移したことなどから、受注、売上、営業利益ともに増加。
運搬機械事業は一部需要の回復が遅れ受注は微減も、受注残があることから売上、営業利益は増加。

2 2 年度：前回予想と比較して北米地区の建設用クレーン需要の増加により受注、売上、営業利益ともに上方修正。

単位：億円	2021年度			2022年度				22上-21上 増減
	上期*1 実績	実績 (9か月)*2	実績 (12か月)	上期*1 実績	【参考】22年5月 予想 *2	22年11月 予想 *2	予想増減	
油圧ショベル	1,504	2,160	2,538	1,597	1,930	2,280	350	93
その他	821	1,222	1,463	880	1,080	1,170	90	59
受注高	2,325	3,382	4,001	2,477	3,010	3,450	440	153
油圧ショベル	1,222	1,773	2,107	1,191	1,980	1,930	△50	△31
その他	726	1,072	1,307	830	1,100	1,160	60	104
売上高	1,948	2,845	3,414	2,022	3,080	3,090	10	74
営業利益	102	158	193	96	145	150	5	△6
営業利益率 (%)	5.2	5.5	5.7	4.8	4.7	4.9	0.1	△0.5
受注残高	1,411	2,015	2,015	2,471				

02

ロジスティクス&コンストラクション



<参考>

・油圧ショベル 地域別需要/売上高推移 (概数)

*外資のみ

単位：万台(上段)/億円(下段)		北米	欧州	アジア (除く中国)	中国*	日本	その他	合計
2022年度 予想*2	需要	4.1	4.3	2.8	1.8	2.5	-	
2022年度 上期*1	売上高	365	87	215	100	338	85	1,191
2021年度	需要	4.0	4.8	2.4	4.9	2.7	-	
	売上高	468	151	269	318	756	145	2,107

・産業用クレーン 業種別受注構成 (概数)

	電力	鉄鋼	造船	港湾	その他	合計
2022年度 上期*1	0%	50%	35%	0%	15%	100%
2021年度	40%	25%	15%	10%	10%	100%

・建設用クレーン事業 (国内) 業績 (概数) (グループ内売上含む)

単位：億円	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 上期*1 実績	2022年度 予想
受注	280	430	240	320
売上	310	370	190	290

02

エネルギー&ライフライン

2 2 上期：エネルギープラント事業は、国内でバイオマス発電設備の大型案件を受注したことなどから受注は増加。一方、国内の受注残が減少したことから売上は減少。
営業利益は売上の減少と欧州で大型プロジェクトの採算悪化により減益。
その他の事業は、受注、売上、営業利益ともに増加。

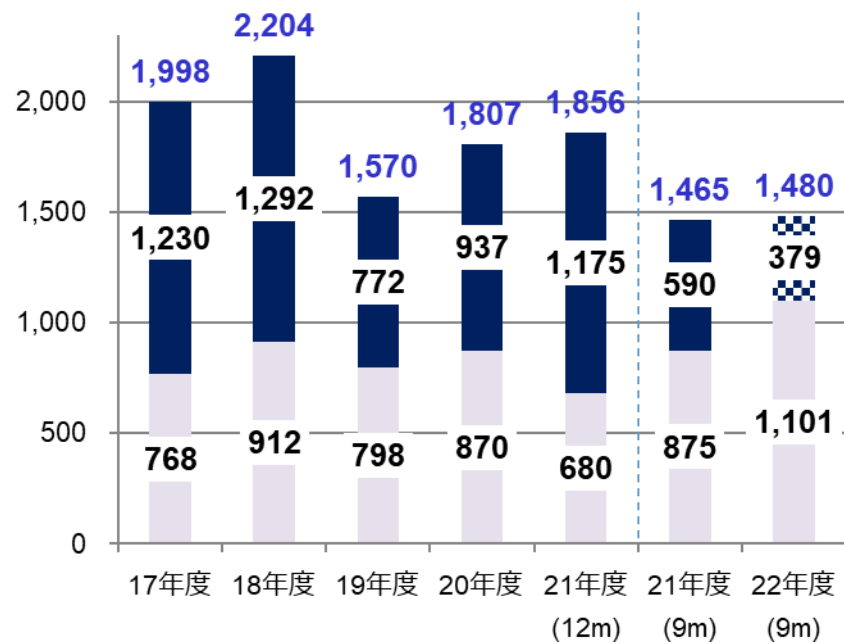
2 2 年度：エネルギープラント事業は大型案件の成約が想定より遅れたことなどから前回予想から受注は下方修正。
また、海外のプロジェクトで採算悪化があったことなどから営業利益も下方修正。

単位：億円	2021年度			2022年度			22上-21上 増減	
	上期*1 実績	実績 (9か月)*2	実績 (12か月)	上期*1 実績	【参考】22年5月 予想 *2	22年11月 予想 *2		予想 増減
受注高	875	1,465	1,856	1,101	1,630	1,480	△150	226
売上高	1,006	1,550	2,051	926	1,390	1,430	40	△80
営業利益	59	124	182	△18	75	10	△65	△77
営業利益率 (%)	5.8	8.0	8.9	△2.0	5.4	0.7	△4.7	△7.8
受注残高	2,635	2,468	2,468	2,643				

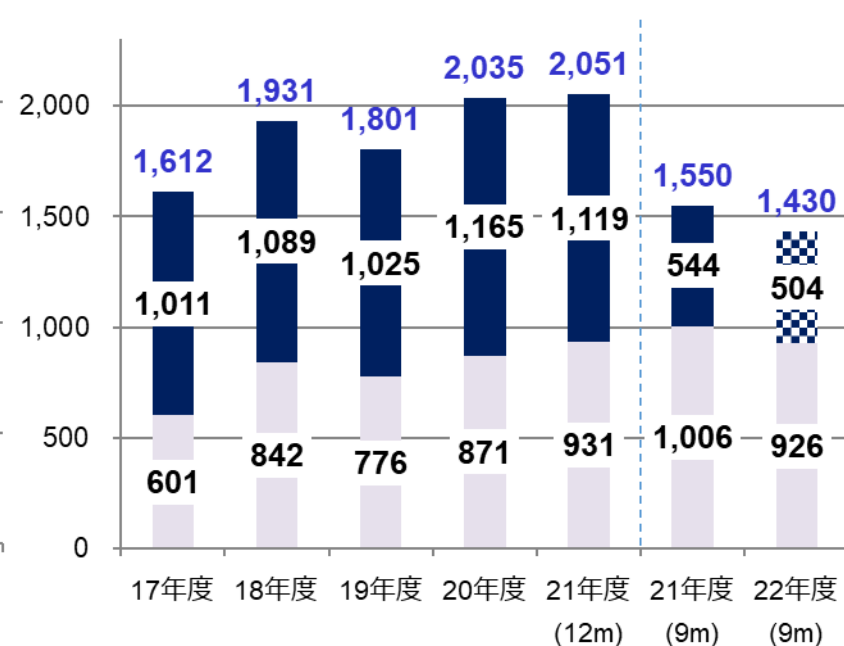
02

エネルギー&ライフライン

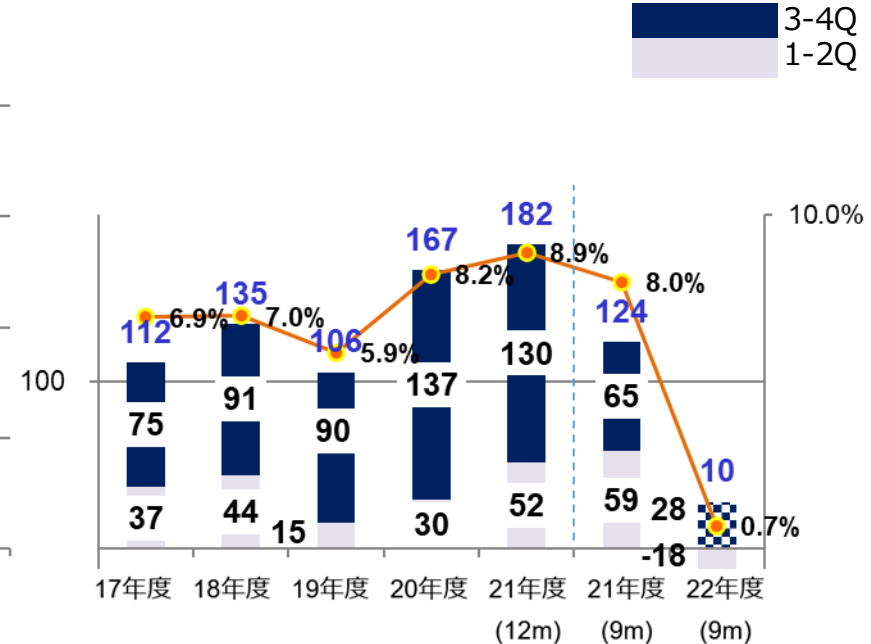
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



<参考>

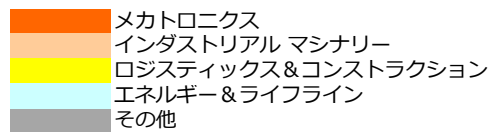
・エネルギープラント事業 主要受注案件

顧客	建設場所	運転開始予定時期	ボイラ形式
東ソー株式会社	山口県周南市	2026年	74MW級CFB *1
Jämtkraft AB	スウェーデン	2025年	25MW級BFB *2

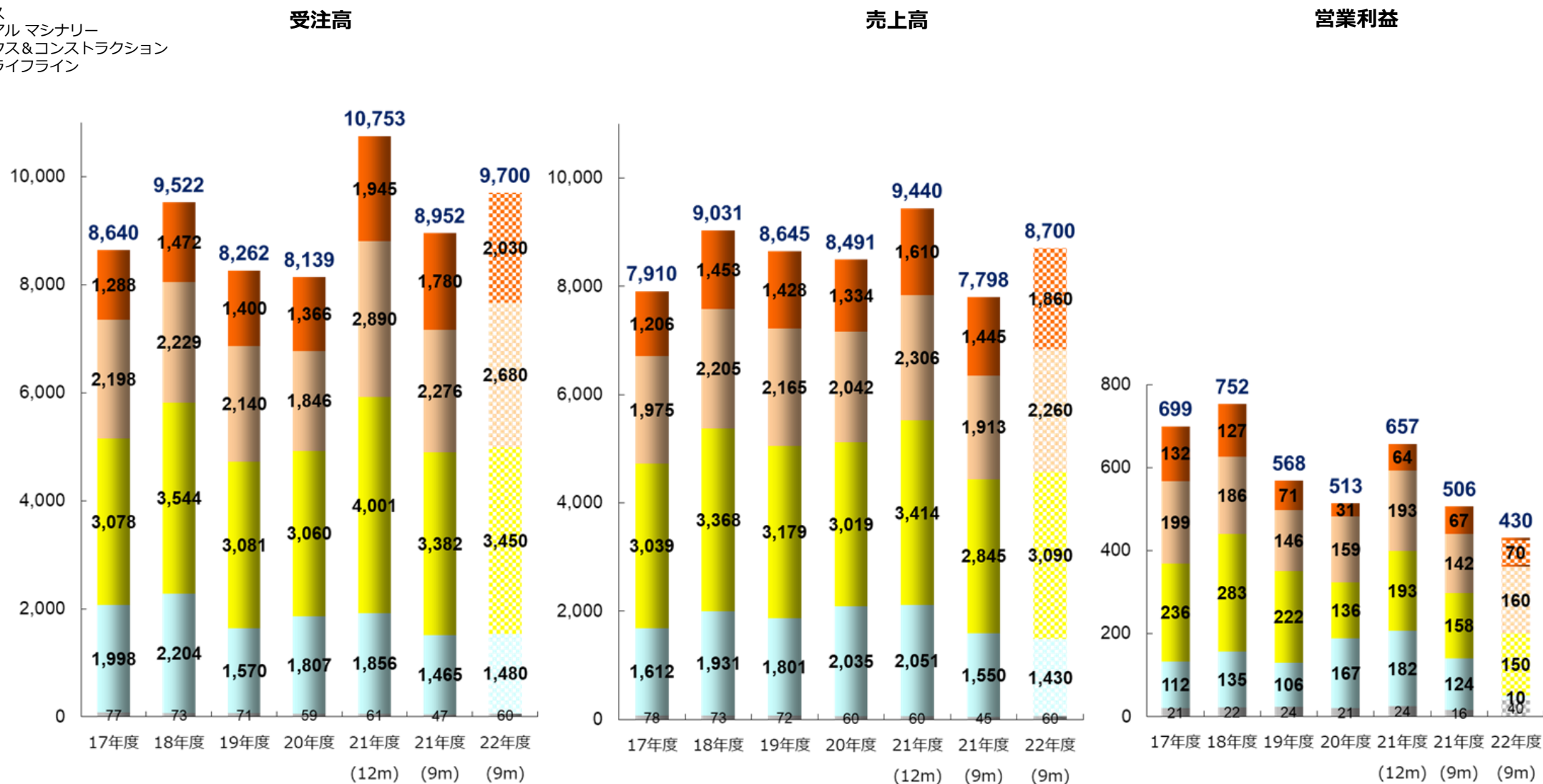
*1 CFB：循環流動層

*2 BFB：バブリング流動床

全社 受注／売上／営業利益 推移



単位：億円



プラスチック加工機械

油圧ショベル

単位：億円

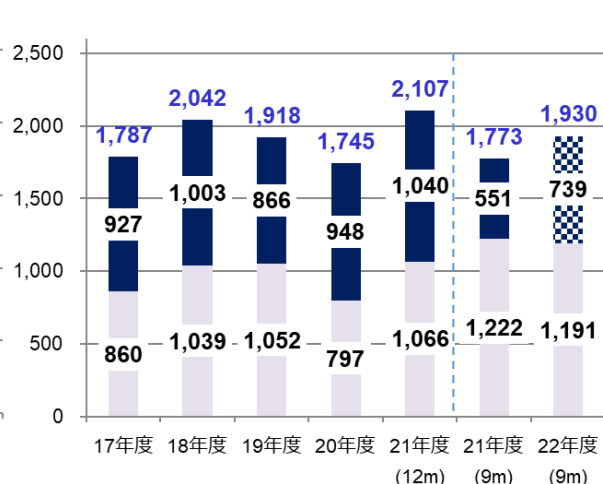
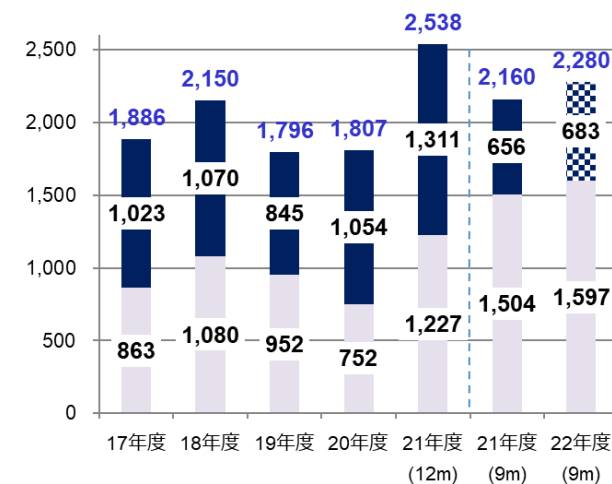
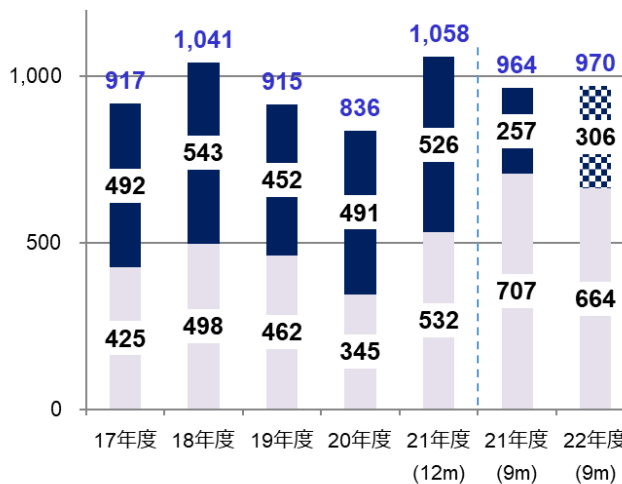
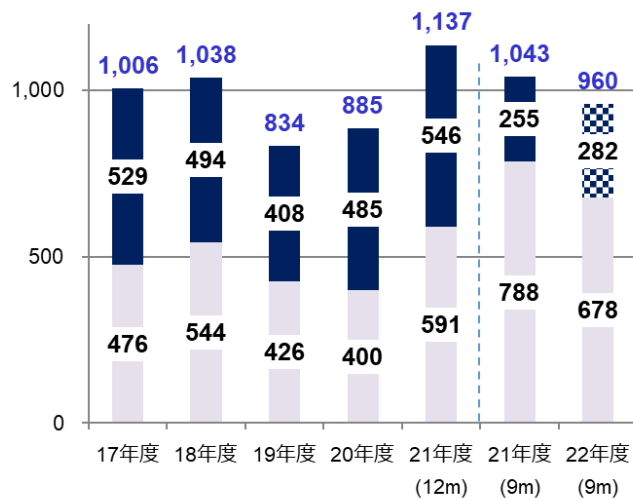


受注高

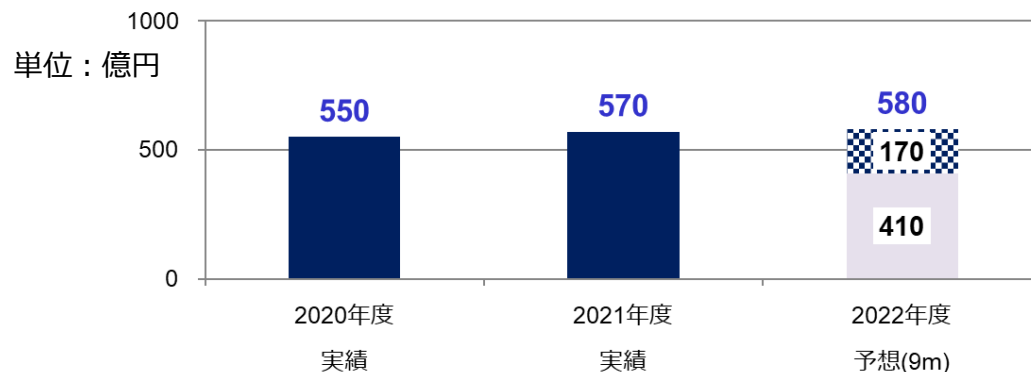
売上高

受注高

売上高



半導体関連事業 売上額合計（概数）



当社が保有する半導体製造向製品とキーテクノロジー

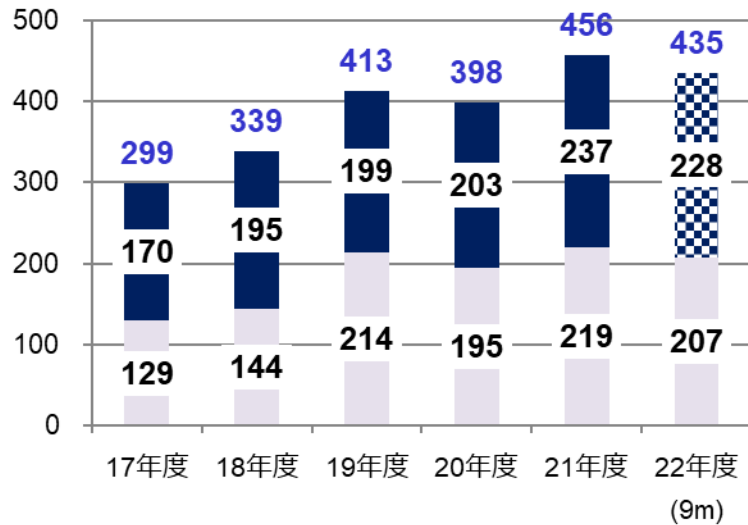
製品	所属セグメント	キーテクノロジーとの関係性 (◎：大 ○：中)		
		ビーム制御	極低温	真空
レーザーアニール装置	メカトロニクス	◎		
4KGM冷凍機/クライオポンプ	インダストリアル マシナリー		◎	◎
真空ロボット				◎
イオン注入装置		◎		○
MCZ用超電導マグネット				○
イオン照射事業		◎		○



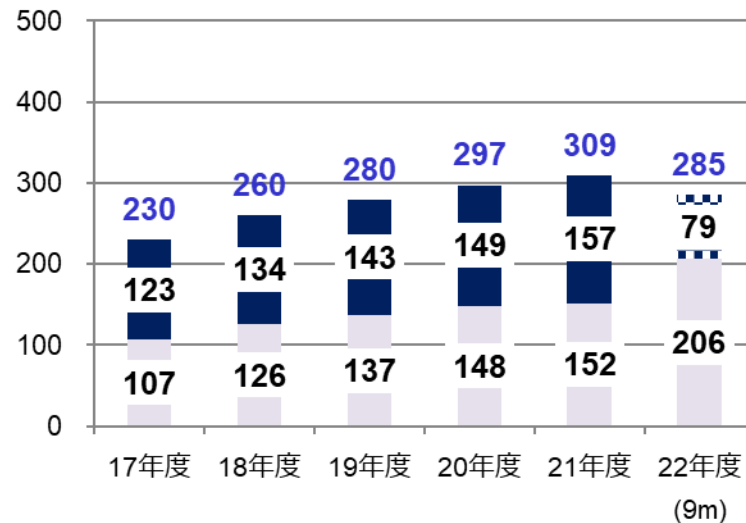
設備投資・減価償却費・研究開発費・人員・為替感応度

設備投資*

*実績はキャッシュアウトベース、
予想は決定ベース



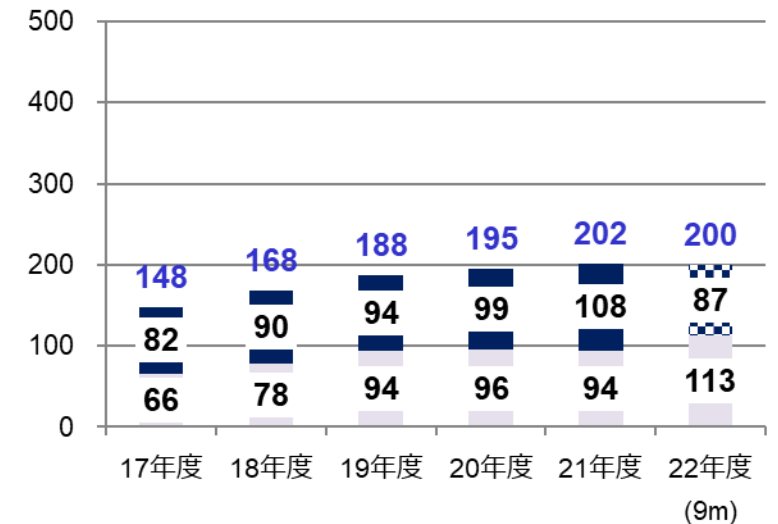
減価償却費



研究開発費*

*実績はPLベース、
予想は決定ベース

単位：億円



人員 (各年度終了3月末時点)

単位：人	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (9月末)
全社計	23,635	24,050	24,584	25,154

為替感応度 (2022年度予想)

単位：億円	ドル	ユーロ	合計
1円の変動による営業利益への影響額*	2.3	1.4	3.7

*2022年度想定レートは¥145 (ドル)、¥140 (ユーロ)



地域別売上高

<為替レート(ドル)¥132> 単位：億円	2022年度 上期*1 (2022.4-2022.9)									
	北米	ヨーロッパ	アジア(除く中国)	中国	その他	海外 計	日本	総売上高		
メカトロニクス	309	323	127	129	94	983	286	1,269		
(うち プラスチック加工機械)	93	200	92	173	37	596	68	664		
インダストリアル マシナリー	186	284	220	343	41	1,074	449	1,523		
(うち 油圧ショベル)	365	87	215	100	85	853	338	1,191		
ロジスティクス&コンストラクション	813	100	242	100	96	1,351	670	2,022		
エネルギー&ライフライン	63	133	134	9	100	439	488	926		
その他	-	-	-	0	-	0	27	27		
合計 / 売上高比率(%)	1,370 24	840 15	723 13	582 10	332 6	3,847 67	1,920 33	5,766		
<為替レート(ドル)¥108> 単位：億円	2021年度 上期*1 (2021.4-2021.9)									
	北米	ヨーロッパ	アジア(除く中国)	中国	その他	海外 計	日本	総売上高		
メカトロニクス	204	257	102	112	69	744	275	1,019		
(うち プラスチック加工機械)	65	201	82	248	36	631	76	707		
インダストリアル マシナリー	136	265	167	365	39	973	356	1,329		
(うち 油圧ショベル)	280	93	178	268	73	891	331	1,222		
ロジスティクス&コンストラクション	653	97	204	269	76	1,299	649	1,948		
エネルギー&ライフライン	50	134	79	6	102	371	636	1,006		
その他	-	-	-	0	-	0	29	29		
合計 / 売上高比率(%)	1,043 20	752 14	551 10	753 14	287 5	3,387 64	1,945 36	5,331		

03

トピックス

03

<「中期経営計画2023」 開発の重点領域>

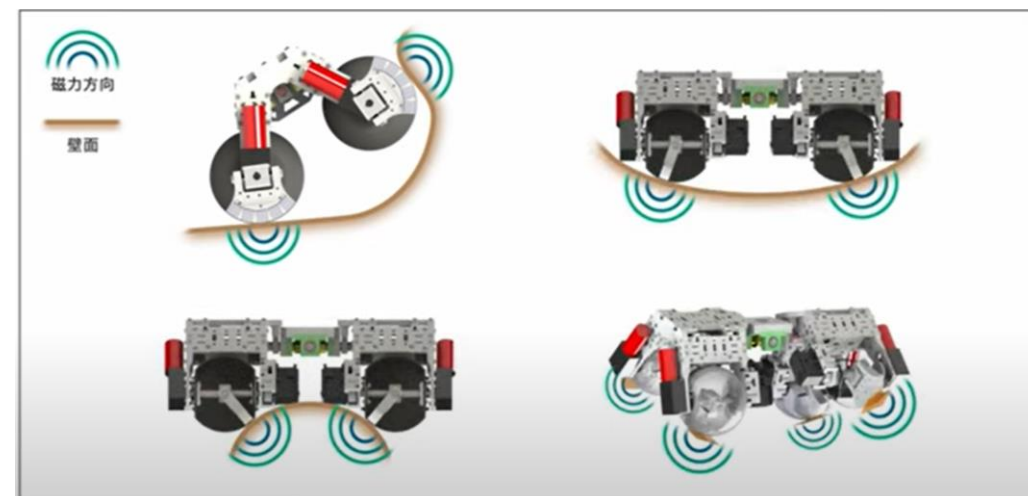
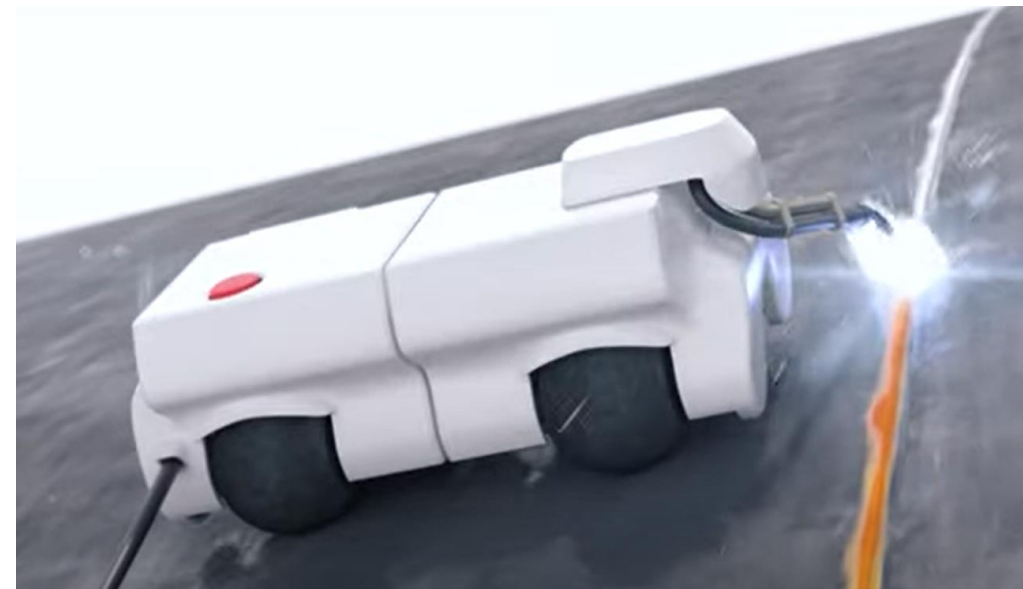
重点領域	開発のターゲット
環境	持続可能な産業に必要な環境保全技術開発 (排水・廃棄物処理技術)
エネルギー	脱炭素社会に向けた未来技術開発 (二酸化炭素・廃熱利用技術、プラント故障診断／運転支援技術)
自動化	移動体やロボット商品の知能化・高度化、生産技術革新に向けた開発推進
デジタルイゼーション	知能化技術・情報基盤技術を磨き上げ、各種知能を製品・サービスに実装

03 トピックス① <開発重点領域 自動化>

鉄鋼曲面を吸着走行する新型ロボット機構の開発に成功

- 技術研究所では、チャレンジ制度※を活用して、鉄鋼曲面の吸着走行を容易に行えるロボット機構の開発に成功。
 「曲面形状壁面の走行」「壁面への着脱」
 「壁と天井など2つの面がなす隅部の乗り越え」などの動作を複雑な制御を必要とせずに実現。
- 船舶やプラント設備等の大型鉄鋼構造物の現場で、高度技能を必要とする曲面上の溶接作業や、人手に頼らざるを得なかった高所作業など、自動化が困難だった場面での活用を期待。
- 作業者の負担が軽減され、より安全でスマートな次世代の製造現場の実現を目指す。

※チャレンジ制度：2019年度からスタートした「社員のチャレンジ精神の育成」および「未来商品・技術への投資」のために、当社グループの将来を担う技術、アイデア、商品の構想を持つ社員に対し「夢を実現する場」を提供することを目的とする制度。社員自らが実現したいテーマを応募することが特徴。



03 トピックス② <開発重点領域 自動化>

新開発ロボット駆動用アクチュエータがハノーバー・メッセにて「HERMES AWARD 2022」を受賞



「HERMES AWARD 2022」受賞式



「TUAKA」製品写真

- ・当社とドイツ現地法人のSumitomo (SHI) Cyclo Drive Germany GmbHが共同で開発したオールインワン・アクチュエータ「TUAKA (ツアーカ)」が「ハノーバー・メッセ2022」にて「HERMES AWARD 2022 (ヘルメスアワード)」を受賞。
- ・「TUAKA」はロボットの関節駆動に必要な機能を一体化し、簡単に使えるロボット駆動用アクチュエータとして開発。減速機にサーボモータやエンコーダ、安全機能搭載のドライバなどを組み合わせたモジュール化により、必要なコンポーネントを選択するだけで手軽にロボットの設計が可能。

※ 本製品は市場投入に向けて準備中。

※ 「HERMES AWARD」は世界最大級の産業見本市であるハノーバー・メッセで発表される技術賞で、特に高度な技術革新を示す製品やソリューションが受賞の対象。

03 トピックス③ <変減速機 モンテレイ新工場竣工（22年9月）>

メキシコ・モンテレイ新工場が竣工、稼働開始。
同工場はメキシコ国内の減速機事業の4工場のなかで最大規模。
減速機は、物流搬送機器、クレーン、水処理設備など様々な産業機械の駆動用として使用され、メキシコ国内では今後も堅調な需要が見込まれる。

1. 機能・目的

- ・メキシコ国内向けギヤモータ・ギヤボックスの組立
- ・減速機部品の機械加工、他の拠点への供給
- ・組立、供給能力の増加により、北中南米地域での減速機事業のさらなる拡大を目指す。

2. 概要

- ①所在地 メキシコ モンテレイ市近郊
- ②投資金額 約 12 百万USドル
- ③建築面積 15,561 m²、土地面積 39,252 m²



03 トピックス④ <イオン注入装置 新工場竣工（22年10月）>

当社の100%子会社である住友重機械イオンテクノロジー株式会社は半導体製造工程で使用されるイオン注入装置の製造・販売・サービスを行っている。

世界の半導体市場、中でもイオン注入装置の主要マーケットであるイメージセンサーはスマートフォン、電気自動車・自動運転などの需要を追い風に高い成長が期待されることから、このたび同社愛媛事業所内に新工場を竣工した。

1. 目的

- ・ 需要拡大に対応する生産能力増強と共に、自動化、省人化を進める。
- ・ あわせて既存工場のレイアウト変更も実施し、効率改善を図る。

2. 概要

- ①所在地 愛媛県西条市
- ②投資総額 約120億円
- ③生産能力 既存設備と合わせて現状の2倍
- ④建築面積 21,836㎡
- ⑤延床面積 38,395㎡

※ イオン注入装置は、半導体素子構造の材料となるシリコンウエハに、加速させたイオンを注入する装置。



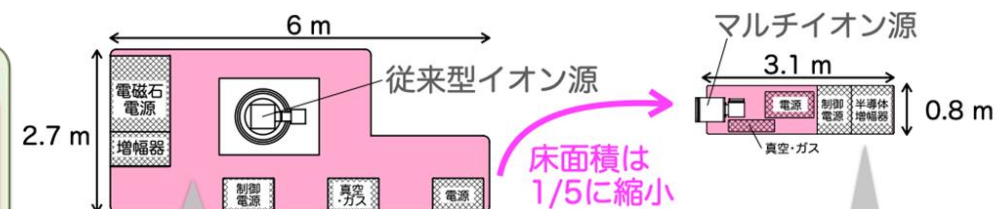
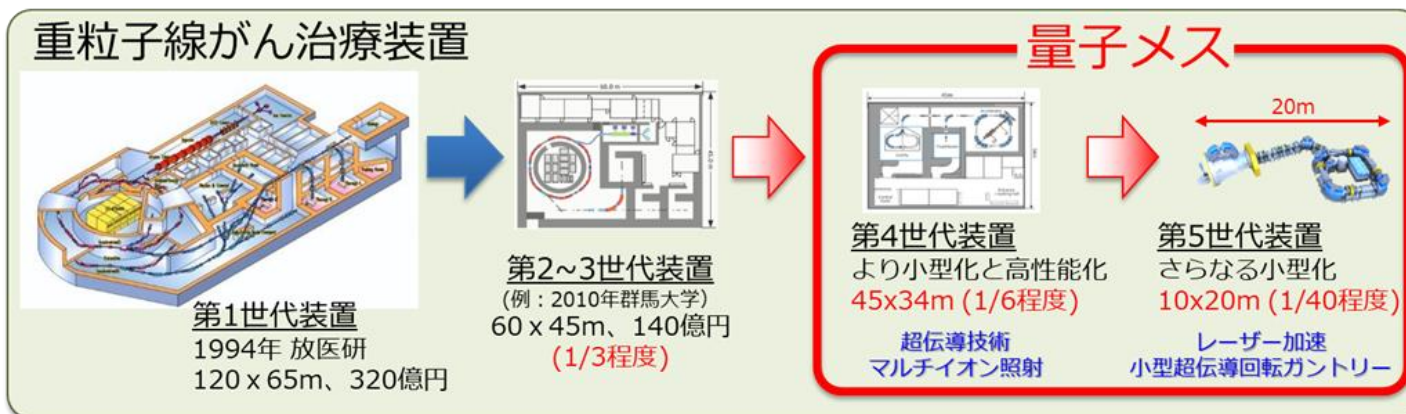
03 トピックス⑤ <次世代重粒子線がん治療装置の開発>

次世代重粒子線がん治療装置「量子メス」実証機製作に着手

- ・当社と量子科学技術研究開発機構は、より高度な重粒子線がん治療を可能とするマルチイオン源の開発に世界で初めて成功。
- ・今回の開発により、ネオンや酸素、ヘリウムなどの複数のイオンを用いた治療が可能に。
- ・がん細胞へ与えるダメージを高めつつ、周囲の正常細胞へのダメージを減らすことができる。
- ・従来のイオン源と比較して設備の床面積を5分の1に低減。設置費用の削減に寄与。
- ・2026年度治療開始を目指す。



開発発表記者会見の様子



※第1~3世代入射器（イオン源含む）は一貫して当社が供給、第4世代マルチイオン源は現在性能評価中。
第5世代入射器についても量子科学技術研究開発機構との共同開発開始。

04

サステナビリティへの取り組み

04

サステナビリティ推進への取り組み

	2022年度上期 実績	課題
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ C S Vの根幹となる製品使用時 C O 2削減に向けた本格議論開始 ・ 非財務情報開示拡充(ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」に選定) ・ ポジティブ・インパクト・ファイナンス融資実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会価値向上に向けた C S V 推進 ・ サステナビリティ重要課題の対応強化 ・ 開示情報発信量、質の改善
環境 (E)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動リスク対応加速 (分析、対応方針検討) ・ 2030年 C O 2削減目標ならびに、2050年カーボンニュートラル目標設定 ・ 再生可能エネルギー調達開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスク、機会評価と対策立案 ・ C O 2削減目標、カーボンニュートラル達成に向けた施策立案・実施
社会 (S)	<ul style="list-style-type: none"> ・ サプライチェーン C S R 対応強化 (グリーン調達ガイドライン更新) ・ 技能実習生の労働環境調査実施 ・ 職域接種等感染症対策継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調達先との連携強化 ・ サプライチェーンの人権問題対応 ・ 社員、協力員のウェルビーイング実現
ガバナンス (G)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社外取締役を含めた長期戦略議論推進 ・ 役員への株式報酬制度の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社外取締役の更なるプレゼンス向上 ・ ジェンダーダイバーシティ

04 < E（環境）：気候変動リスクへの対応 >

気候変動に対するシナリオ分析を行い、リスク軽減、機会活用に向けた検討実施

1. TCFD開示に合わせたシナリオ分析

	重要度	リスク	機会
1.5℃ シナリオ	大	化石燃料発電規制強化	再生可能エネルギー安定供給
	大	省エネ性能要求増加	省エネ製品需要増加
	中	内燃機関規制強化	電動化、燃料転換需要増加
	小	炭素税、原材料費高騰	省エネ、省資源製品需要増加
4℃ シナリオ	中	自然災害激甚化	防災インフラ整備需要増加
	小	海面上昇（長期）	災害復旧向け建設機械増加

2. 影響の大きいエネルギー&ライフライン、メカトロニクスセグメントにフォーカスし深掘り実施

セグメント	主要製品	リスク	機会・対応
エネルギー& ライフライン	発電プラント	<ul style="list-style-type: none"> 行政による石炭火力発電制限 未認証燃料利用バイオマス発電への規制強化 	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の小さいエネルギー供給システムへの転換需要増加（バイオマス、蓄電事業等） 既存石炭火力発電のバイオマス混焼改造の需要増加
メカトロニクス	変減速機	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の製造時、製品使用时CO2排出削減要求高まりとその対応 行政によるモータ電力効率規制強化 	<ul style="list-style-type: none"> 生産設備の電動化加速 高効率製品価値向上 電気、制御、減速機一体の需要増加

当社製品を通じた直接（狭義のCO2削減）、顧客活動を通じた間接（広義のCO2削減）双方で脱炭素を目指す議論を開始した。

04 <S（社会）：ビジネスと人権への対応>

サプライチェーンの人権問題への対応要求の高まりを受けて対応加速
リスクが高いと考えられる領域を優先し確認、評価実施

・当社Gのアプローチ：

1. リスク評価：当社Gの国内高リスク領域は技能実習生と特定
2. 調査：国内拠点の技能実習生の労働環境調査をNGOとともに実施
3. 是正：確認した課題に対応（倫理ホットラインの多言語化等）
4. 情報開示：統合報告書2022で一部報告

・今後の予定：

1. 人権方針の策定
2. 国内の自社拠点の調査継続
3. 国内サプライヤー（実習生在籍）調査へと拡大



NGO アスク※代表理事による技能実習生へのヒヤリングの様子

※アスク：一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン

04

<G（ガバナンス）：取締役会の実効性評価結果を踏まえて >

ガバナンスのさらなる充実に向けて

課題① 取締役会の構成、在り方

→ 女性取締役の登用など引き続き取締役会のダイバーシティの充実。
機関設計変更の要否を含めたガバナンス体制を検討。

課題② 経営資源配分、事業ポートフォリオ戦略

→ 長期的な当社経営の在り方、戦略を踏まえた、
事業ポートフォリオ最適構成の議論を深化・加速。

課題③ 資本コストを意識した審議の充実

→ 中期経営計画および長期戦略について、事業部門毎の最適な
K P Iに基づき、R O I C目標をいかに達成するかの計画と
戦略を更に具体化し、取締役会での議論充実。



将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。